思いが広がる「1000 属検定」

千葉大学　園芸学部園芸別科花卉専攻
後　閑　早　苗

のんびりと年齢相応に学生生活を過ごしていたころに比べて、年を重ねた現在の方が充実しているし、学習量も多いような気がしています。特に花産業必修の1000 属検定については、目標を掲げて日々格闘。

検定は 1986 年 9 月から実施され現在に至っていますが、C 級ライセンスは花産業では常識レベル、B 級ライセンスは社会に出ても同年代にまず競争相手はいない、A 級ライセンスともなれば花卉産業の頭脳として脚光をあびるでしょう…と言われています。

高校生の時から華道を続けている私にとっては、植物を見れば大抵の名はわかりますが、その植物の属名（しかもラテン語）・科名となると、わからないことばかりです。ブーゲンビレアがオシロイバナ科？　アサガオ・ヒルガオ・ヨルガオがみんなヒルガオ科？　なぜ？？？　覚えようとしても頭の中には「？」がどんどん増える一方です。属名のラテン語もまた英語を習い始めた中学生のようにスペル間違いが多い。子供達には今まで「スペルは何度も書いて覚えるのよ」と言っていた手前、私がやらないわけにはいきません。見えるところでわざとらしく勉強をしたこともあって無事に C 級は合格しました。

1000 属を学んでいく上で、ただ単に属名や科名を暗記するのではなく、その植物の名や姿に思いを向けてみる。するとそこから広がるいろいろな世界が見えてきます。冠婚葬祭に使われる植物の由来、日本の色を表すために使われる植物の多さ、万葉集に歌われた植物など。ただし、私は思いを広げる時間が長すぎて合格までにちょっと時間がかかってしまいましたが。

覚えたことを忘れないためにも、日頃の灌水当番の時には一鉢ごとに丁寧に水やりをします。鉢に挿してあるラベルと植物を見ながら 季節の違いによる植物の変化も観察します。自分の食事は忘れても灌水は絶対に忘れてはなりません。今年の夏は猛暑・酷暑が続き例年以上に灌水が大変ですが、動くことの出来ない植物のために全員交代で灌水をしています。

園芸別科花卉専攻は「花組」と呼ばれています。優しい響きです。２年という短い期間に花卉産業のプロになるべく勉強と実習に真剣に取り組み、花卉生産者としての自立を目指しています。高校卒業後の進路や既に社会人を経験してからでも遅くはありません。実際に花組の同級生は私の息子と同学年なので母子の年齢差です。園芸学部の専門科目を受講でき、園芸別科生専用の授業もあるので花卉産業の理論と実務を確実に習得することが出来ます。

秋に開催される戸定祭には、実習で育てたパンジー・ビオラや花組の先輩方が生産している鉢花の販売と綿菓子の販売をしました。毎年先輩方の力をかりて花組の売店は盛況です。今年も話し合いから始まり、開催に向けて計画を立て、先生や苗生産部の技術職員の方々に教えていただきながら準備を進めています。今の花組のカラーを出し明るく元気な花屋さんになることでしょう。

２年生は修了論文の研究も進むなか、それぞれが自分のレベルでの 1000 属検定合格に向けて取り組んでいます。私はこれからもきっと 1000 属の植物に思いを広げてしまうので時間がかかってしまうと思いますが、目標を一段ずつ上っていきます。そして頭の中には「？」が相当増えるはず。そのあとは一つずつ「？」を減らしていくために次の勉強です。いつになるでしょうか…。

花産業必修 1000 属検定試験の様子（千葉大学園芸学部）

出荷目前のパンジー・ビオラ（千葉大学環境健康フィールド科学センター）